奈良山通信

第22号

中学生からの取材

最近、「寺離れ」「墓離れ」という言葉を耳にします。都会では墓地を手に入れる事が難しく、寺の檀家になると寺との付き合いが煩わしいという理由だそうです。日本人にとって「お寺」や「お墓」って一体何なのでしょうか。

8月7日に、東京在住の中学生から取材を受けました。その少年は父親の実家が新居浜市で、いずれ「墓守り」をする立場だということもあり、「お墓」や「先祖供養」について研究し、それを卒業論文にする事になったそうです。

さて、私たちの祖先は今どこにいるのでしょうか。その答えははっきりしています。

「親祖先は自分自身の中にいる」

たとえ親祖先の肉体は今はなくなっているとしても、生物学的にみると親祖先の血はまさしく自分自身の中に流れています。

それを思うと、自分自身の存在は親祖先をなくしては考えられません。お墓を拝むとは、お墓をシンボルとして親祖先を拝む事であり、それは結局自分自身の中にある親祖先を尊ぶ事に他ならないのです。

墓の形態にこうでなければならないという決まりはありませんが、私はお墓参りに行くのが楽しみになるような「日本人のお墓」が良いと思います。奈良山霊苑に建っている「古代五輪塔」や「宝塔」、永代供養塔として建っている「宝篋印塔」等、仏教的意味のあるお墓も魅力的です。

お墓を持たない「樹木葬」の場合でも、お墓と同様、私たち生きている者が亡くなられた方としっかりと向き合い、互いの幸せを交換していると感じる事が大切です。

取材を終えた少年が「お墓の事が良く分かりました」「先生や友達にも教えます」と嬉しそうに事務所を後にしていく姿に、私は墓石屋という仕事を誇らしく感じました。

㈱山下石材 代表取締役
奈良山霊苑管理組合長　山下　武久

寿陵とは・・・

「寿陵（じゅりょう）」という言葉を聞いたことはありますか。

「寿陵」とは、生前に建てておくお墓のことです。生前にお墓を建てるというと、「まだ生きているのに・・・」「引き寄せられそうで怖い・・・」など、悪いイメージをもつ方も多いと思います。

しかし、生前にお墓を建てるということは、それを節目に、**あらたに生まれ変わり、これまでの人生を清算し、再出発するということ**。いわば、今後の人生をよりよく過ごす為のお墓なのです。

皆さんご存知の聖徳太子や昭和天皇も寿陵。縁起が悪いはずがありませんね。

ちなみに、私たちが生前に立てるお墓は、一般的に「生前墓」といいます。昔は高貴なお方のお墓の事を「陵」といっていました。「寿陵」と「生前墓」は同じ意味を持ちます。

寿陵は「**不老長寿の願い**」が込められており、そこには「これからの人生をよりよく生きるために」という思いが込められています。

毎月第二木曜日に"お墓セミナー"を開催し、社長がもっと詳しく楽しく教えてくれます。是非遊びに来て下さい♪

次回開催　11月9日10時～

愛顔（えがお）で応援しましょう！

愛つなぐえひめ国体、愛媛県勢大活躍で、天皇皇后杯ともに2位という好成績で幕を閉じました！

宇和島圏域でも多くの競技が開催され、選手たちは一般家庭に民泊したそうです。

ボート部役員として4日間参加していた組合長から、メールで実況中継をしてもらい、周囲の方も興奮が伝わってきたそうです。

月末には身障者による**えひめ大会**が開催されます。開会式には松野鬼城太鼓も応援に行くそうです。

愛ある愛媛、愛媛県民のおもてなしの心が伝わると良いですね。

掲載情報

業界唯一の専門誌"日本石材工業新聞"に、㈱山下石材社長のインタビュー記事が載りました!!霊苑やお墓の魅力等の熱い想いをギュッと語っています。

掲載頁のコピーを同封していますので、是非ご覧下さい。

秋の訪れ

樹木葬霊域のシンボル「やまぼうし」も色付き始めました。

参道も落ち葉のじゅうたんで参拝者をお出迎え♪

撮影：10月11日

奈良山霊苑のブログがあるのをご存知ですか？
実は、少しづつ更新しています。
良かったら覗いてみてください♪
https://ameblo.jp/narayama-reien/

来月から日曜・祝祭日はお休みとさせて頂きます。ご不便をお掛けしますが、ご了承下さい。

年間管理料の引落しについて（墓地該当者様のみ）

平成29年度年間管理料を10月27日(金)にお引落しさせて頂きます。

今年度より領収書につきましては、個別の送付を致しませんので、ご入用な方はご連絡願います。

秋の味覚

食欲の秋の到来！
「いもたき」や「煮物」にオススメな"やすまる出汁"はいかがですか？

¥1,130-（税込）

南瓜の煮物や栗ご飯に入れても美味しかったですよ♪

他の味もありますよ～

発行元：奈良山霊苑管理事務所
〒798-1351
愛媛県北宇和郡鬼北町奈良4230-1
電話番号　0895-45-0164
http://narayama-reien.jp
営業時間　9：00～17：00

専務のコラム

大いに盛り上がったえひめ国体も10月10日に無事閉幕した。

奈良山霊苑がある鬼北町でも少年女子バレーボール競技が開催され、
4日間の熱い戦いが繰り広げられた。
高校生とは言え、全国レベルの試合がこの鬼北町で観戦できる機会などそうそうありません。
国体自体、次に愛媛県で開催される時まで私生きているのか？いや、ない。無理。
これは行くしかない。

バレーボール会場の2階席から選手たちを見下ろす。
さすがに長身でスラーッとした選手ばかりやな～。
ん？中に混ざってえらいチビッコの選手もいるんやな～。
小さいのに偉いなぁ～。何センチくらいなんやろ？と選手名簿を見てみる・・・。
「164センチ」・・・ん？！164センチ？？？私より10センチも高いのねーーっ！
しかし試合開始まで1時間半たっぷりと休み無しでウォーミングアップを続ける彼女たち。
疲れないのかなぁ。疲れないんだねぇ。大したもんだ。
それにしても身長は高いけど、あの腕折れそうなほど細いな。あれでアタックが打てるんかなぁ？
「バシイィィィッ！！！」げえぇっ！速い！痛そうっ！
ま、あれだけの長身だ。アタックは打ててもレシーブはなかなか動けれんのじゃないの？あーーっ！
拾った！あーーっ！また取った！あーーっ！落ちないっ！

いやいや、ホント、すごかった。来て良かった。観ることが出来てホント良かった。

どこのチームも県を背負って出場しているチームばかり。
ここに出てくるまでには何年も積み重ねてきた練習があり、人に言えない苦労や努力、
たくさんのものを犠牲にしてコートに立っているのだろう。
だからこそ人々は一つ一つのプレーに感動する。

愛媛県各地でも感動的なドラマが展開されたことだろう。
選手の皆さんはもとより、
国体に携わった役員・スタッフ・県民の皆さんに心よりの敬意を払いたい。